





失礼します！

ああ、よく来てくれたね。

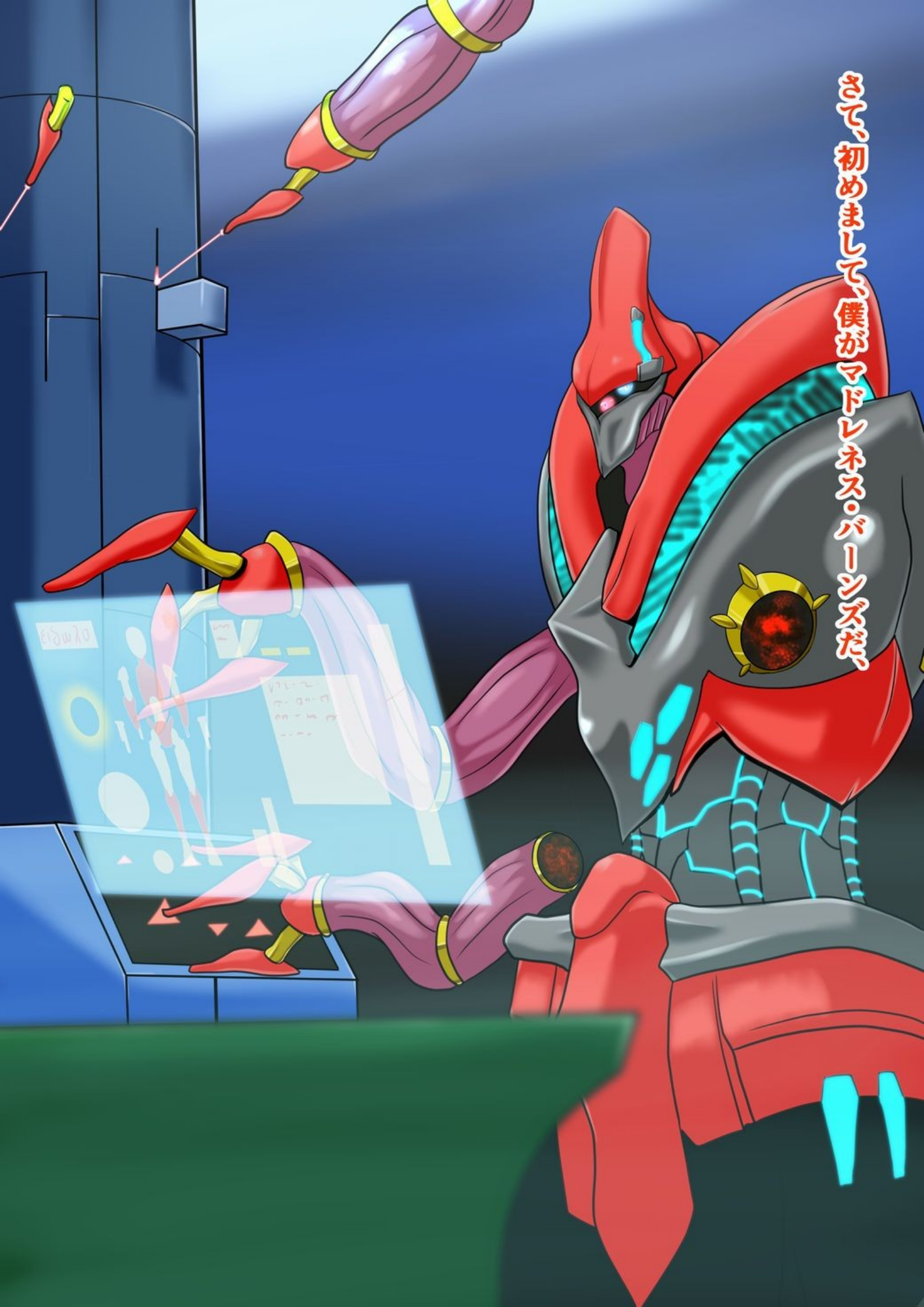
まさか僕と同列の能力を持つ者がいるとはね、女王から話を聞いた時には眉唾だっただが、実際君の研究データを見て驚いたよ……

と、すまない、初対面の客人に対する応対ではなかったな。

い、いえ、本日はご招待頂きましてありがとうございます！。  
尊敬するマドレネス・バーンズ博士にお会いできて幸いです！。

はっはっはっ、とりあえずそのデスクに腰掛けたまえ、  
飲み物はそこに色々用意しているので、好きなものを選んでくれ。  
僕は必要としないので遠慮は必要ないぞ。

さて、初めまして、僕がマドレネス・バーンズだ。



今は一応レギオンクラウンに所属して色々作品を制作している。

今日君を呼んだのは、僕の助手として君をスカウトしたいと思ったのだよ。  
そしてその為の面接をしたいと思いますってね。

えっ!?!?!?!? ええ!?!?!? わ、私を助手ですか!?!?!?  
それは願ってもない申し出ですが……

……いえ折角頂いた機会です、今から面接でも構いません、よろしくおね……

落ち着きたまえ、これから面接は始める、  
だが、この面接は、

君が僕を判断する面接、なのだよ。

えっ……？それは……どういう事でしょうか？

うむ、僕はね、一般的な面接というものに価値を感じないのだよ。  
初対面の相手を一目で測るなんて、いかに僕が優秀でも出来る事ではない。  
他のものならなおさらだ。

そも、新たに入った者が成果を出すには時間と経験と失敗等を繰り返して  
優秀を築いてゆくものだ。

ならば新人の初心演説などを聞くよりも、  
人材を囲う側こそが可能性がありそうな者の探究心や創造力などを煽り、  
その元で自分の力を発揮したり挑戦したいと思わせるような事を提示した方が建設的で効率的だと判断しているのだ。

は、はい……ですが私は博士の作品の素晴らしさは知っているつもりです、  
私が博士を判断なんて、恐れ多いです……。



それは僕の世間的イメージだ、それでは僕の表層部分を見ているだけに過ぎない、  
今から君が図るのは僕の懐の内側の一端だ。  
だが君が僕を計るのには十分だと自負している、

無論、君が失望したならば今回の件は水に流してくれ、  
僕を不合格と断じても君のこれからなんのデメリットが  
無いよう計らう事を約束する、  
だから何も気にせず僕を計り、君の感情に正直になって判断してくれ。

。。。は、はい、分かり、ました、博士。。。。

うむ、では僕が君の眼鏡にかなったなら、君は僕の弟子になる。  
博士等という呼び名ではなくその時は先生と呼んでほしい。

まあ面接というのは相手を測り、相手に測られるものでもあるから、  
僕も君の反応も見せてもらおうがな。。。。

それでは今から私の実力を君に披露する  
それを見て出す君の回答を楽しみにしている。

はい、宜しくお願い致します。

よし、では今僕の87個ある実験場の一つに、  
作品を仕掛けた、そして今そこにマーゴットが侵入した。  
勿論そうなるよう仕向けたのだが、まずは敵を知る所から始めよう。

このカメラは実験場に残ってた古いカメラだから解像度が悪いな……  
音声も拾えないな。



1人……でしようか？

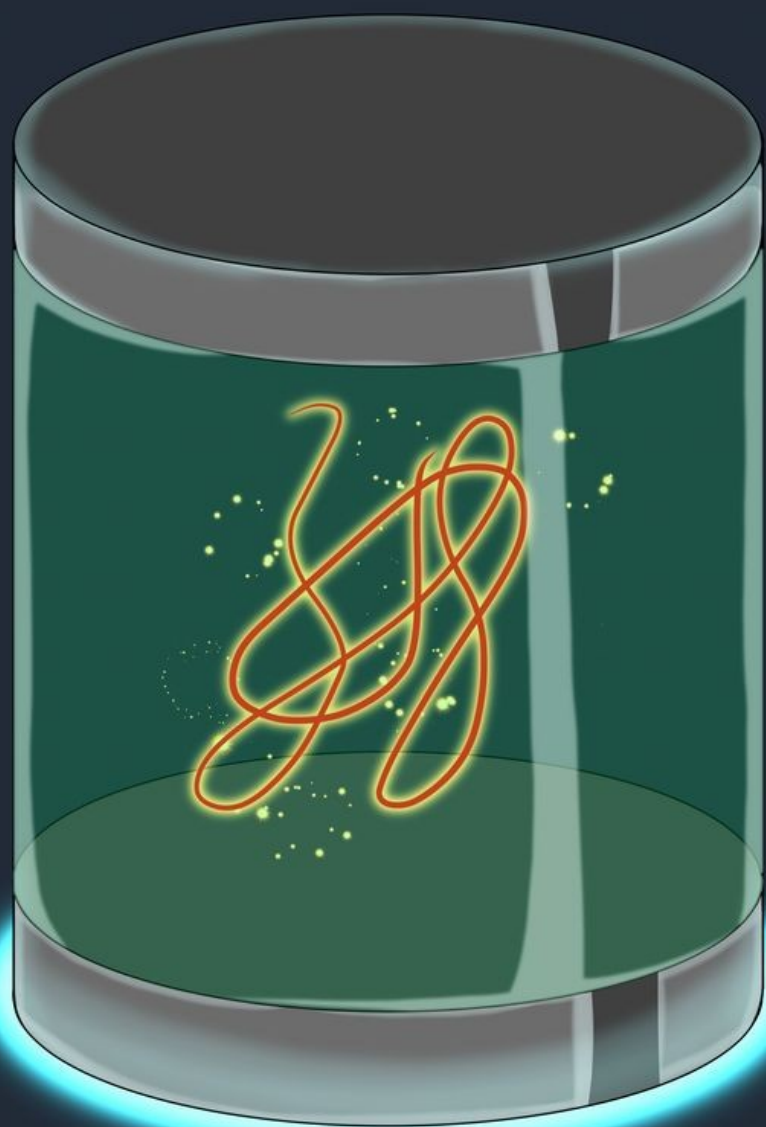
そうみたいだな、  
小さい実験場だから期待していなかったが、一人で侵入してくるという事は  
クラス4と5のマーゴハンターという可能性が高い、  
僕の面接に相応しい相手だ。

それでは彼女が畏にかかるまで、今回の作品の主な材料の話をしようか。  
これらはそうそう知る機会がないものだぞ。



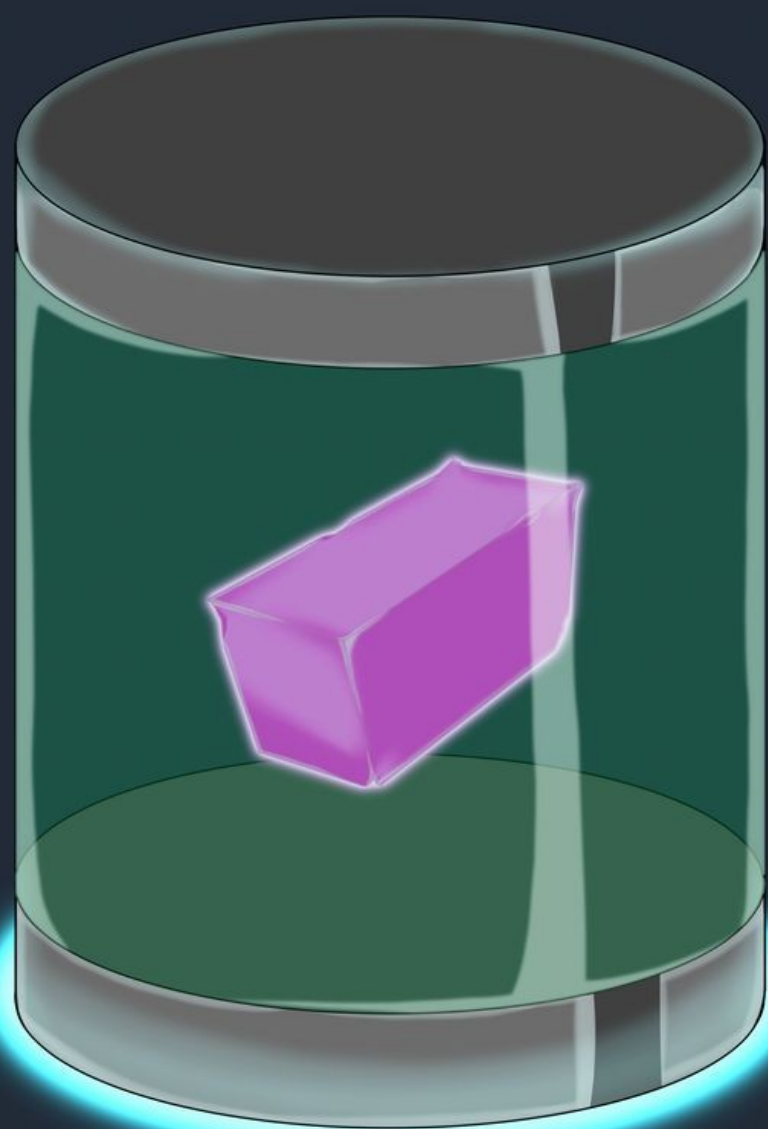
まずはこの

## 「キバリス淫糸」



キバリスというマーゴがその能力で作り出す半エネルギー状の糸だ。  
この糸には「脱力」の効果があり。  
触れた者から強制的に力を奪う事ができる。  
彼女の話では、この糸より強力な「淫縛糸」というものもあるそうだが、  
そちらは素材として維持が難しいそうだ。

# 「淫気水晶」



クアゾロスというマーゴ生み出す素材で淫気が凝縮された水晶だ、ただ淫気の濃度が凄まじいので水晶と呼んでいるが透明感などは無く、石のような質感をしている。触れた者に際限なく淫気を流し込む性質がある。

私の作品の重要な素材だ。

# 「マーグ王液」

パワーウェルⅡマーグというマーゴの体液だ、淫気を多く含んでいて  
どのように使ってもその効果が薄れないというのが特徴だ。  
今回はデバイスの一部に組み込んで性能向上の為に使用している。

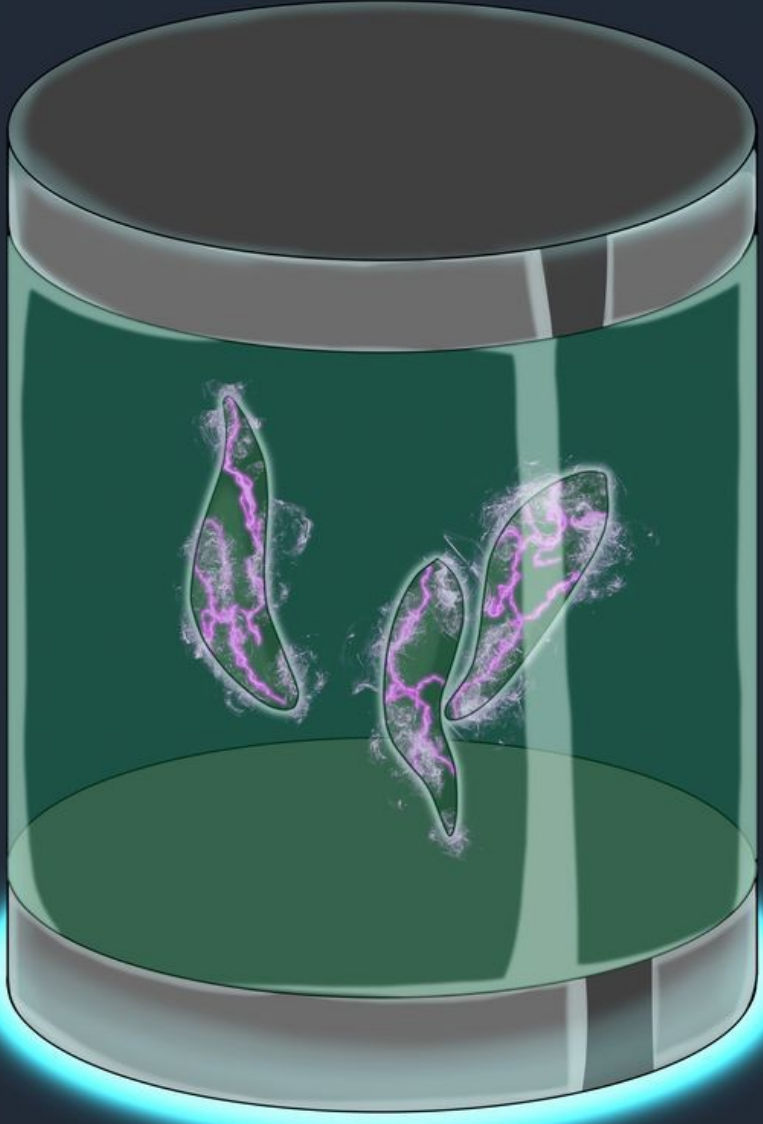
なんでも本人の吸引管から出る液は特別で

洗脳効果等も含んでいて「聖液」と呼んでいるそうだが、  
高貴なマーグ家の者に見扱う事を許された液で他者には渡す気はないそうだ。

マーゴに一族など無いはずなのだが、強力な能力を持つマーゴは性格に  
問題がある者が多いと聞かすが、その典型のようなものだ。



# 「ラアド細胞片」



淫気を含んだ電気を操るケラブノスというマーゴの肉片で、  
電気は浴びせた相手の体に蓄積する効果がある。  
これは肉片なので快感電流の効果は強くも無いが、  
薄く延ばしたり細くしたりと加工してもその性質自体が変わらないのが特徴だ。



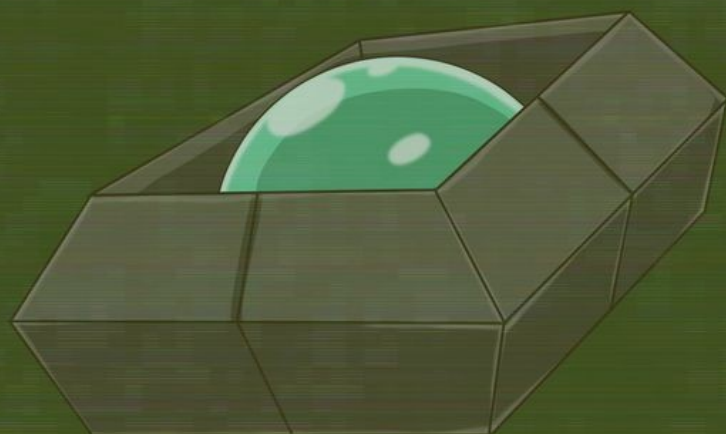
今回はこの4つの素材を組み合わせて作成したデバイスを使用している。

…うむ、どうやら彼女がトラップにかかったようだぞ、  
では僕のマドレーデバイスの妙技とマーゴハンターという素材で作り上げる作品の  
制作過程を御覧にいれよう。



今彼女を捕らえた罫は

## 「バンテージボックス」



このトラップはボックスの感知範囲に誰かが侵入すると、  
外側のパーツが展開し結界を形成する、  
結界は内側からは破壊が困難な強力なバリアになる。

……？、内側は破壊困難という事ですが、外側からはの強度はどのようになっているのでしょうか？

脆い。

残念な話だが、何事も完全を求めると必ずどこかが綻ぶ。

—ならばある方向からの綻びを予め設定してしまえば、  
—方面からは完全なものが出来る、  
—という発想を元にした作品だ。

—応部屋のドアに足止め用の細工をしているが、今回のように単独で来る相手には相性がいい。

—そしてバリア内の空間のあらゆる場所から、  
—バナーが現れ設定した通りに拘束していく。

—バナーには淫糸を織り込んでいて、巻きついた対象は脱力させられ  
—アニメーションにも干渉し無力化する、

—バナーはバリア内のどこからでも出現するので、マーゴハンターの  
—身体能力をもつてしても回避し続ける事は不可能、

—確実に対象を拘束する事が可能だ。

博士、真ん中のクリスタルの様な部分には何かギミックがあるのでしょいか？

あの部分には、別のデバイスを仕込む事が出来る。

今回はマドローバンプを入れてある。



おお！ マドローバンプ！、博士の代表作ですね！

うむ、確かにあれは有名だと僕も自負しているよ。

マドラーパイプは淫気の効果を入れた相手の体内に直接注入し無力化するデバイスだ。その根幹には淫気水晶の存在が欠かせない。特に粘膜部に接触させる事で最大の効果を瞬く間に対象の体を発情させ蕩けさせる。

最上位ランクのものになれば挿入するだけで身体が快感に支配されまともな思考も身動きも出来なくなる。

今回はそこまでのものではないが、マーゴハンター用のものを用意した、半自立型でヴァギナとアナルを制圧する、表面はマーグ王液製のローションを分泌する設定なので容易に挿入できるだろう。

そして現地での作業を円滑にするための要員として、「B-2M」という人形を配置した。廃棄予定の実験機でラジコンの様なものだが、カメラの操作等で今回の実験で使用する。



V...

ギョ

ギョ

ギョ

ギョ

ギョ

ギョ

ギョ

このカメラは先程よりも写りが鮮明だな。



す、すごい、瞬く間にマーゴハンターを捕らえました、  
脱出は……出来ないようですね。

ああ、脱出を試みているようだが、マドーブイブで体は発情させられ始め、  
重ねてバンテージに脱力させられている身ではまともな抵抗などできません。

では次のデバイスだ。

これは

「淫紋シール」



君も知ってると思うが、人間に淫紋を刻むマーゴは相当数存在している、  
だがマーゴハンターに淫紋は効果が無い。

いや、正確には効果はあるのだが、  
強靱な体を持つマーゴハンターには  
刻んだ淫紋の効果は人間に与えるそれより効果が薄く、

その再生能力で効果時間が長いとされていても  
半日〜1日程度で刻んだ淫紋自体が消滅してしまう。



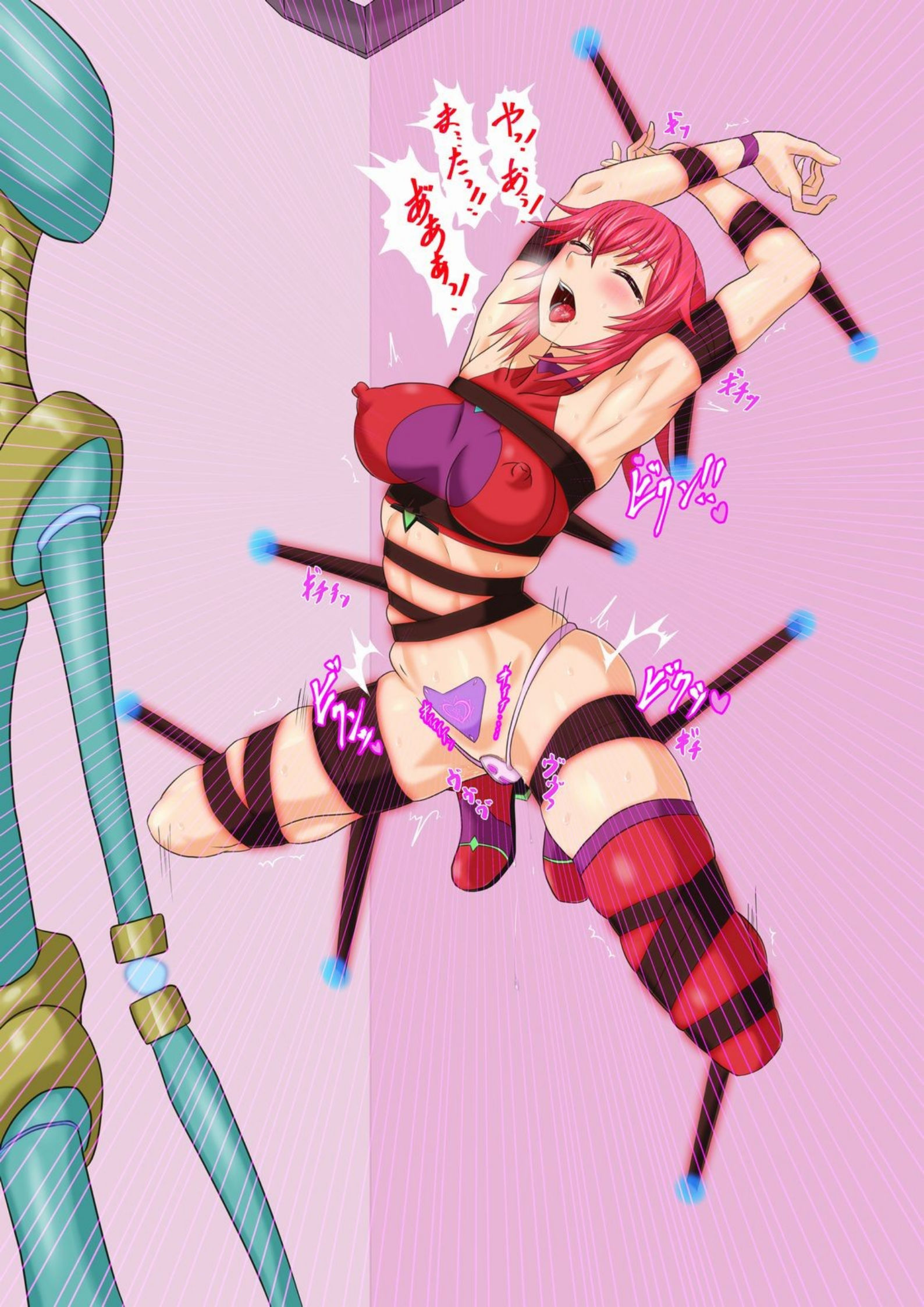
この淫紋シールは水晶と淫糸と細胞片を合わせて作ったデバイスだ、  
試行錯誤の多いデバイスだったが今回は最新型を使用している。

このパッドを下腹部、子宮の上辺りに張り付ける事で淫紋を刻んだのと同等の効果を与える事が出来る、  
体に刻むわけではないのでマーゴハンター相手でも淫紋が消滅する事は無くその強力な効果を継続し与え続ける事が出来る。



剥がそうとすると強力な快楽電流を流す機能があり、  
吸着力も高いが  
所詮張り付けるものなので剥がされる事には弱い、  
が、こうして拘束した上で使えばより効果的だ。





やっ! あっ!  
またっ!!  
ああっ!

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

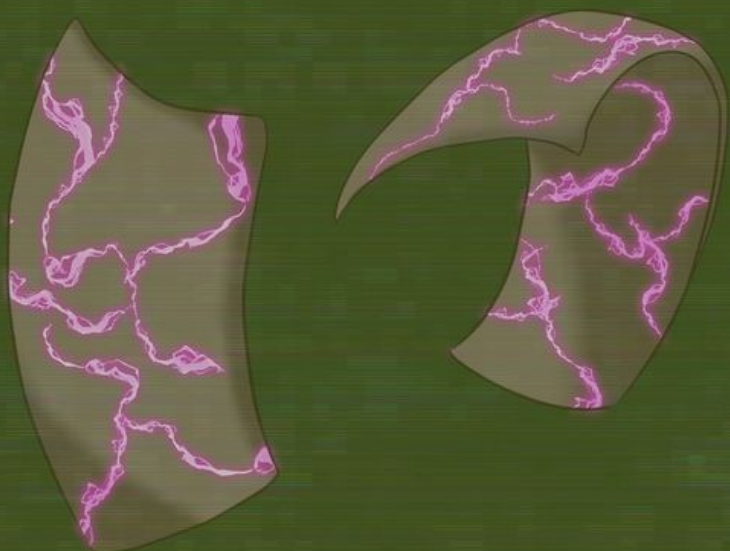
す、すごい！、さっきまでマドローバイブは堪えられていたのに、シールを貼っただけで明らかに反応が変わって、もう2回程絶頂を迎えているようです。

うむう、少々効果が強かったか……いや、そうではないな。

クラスの高いマーゴハンターはマーゴを数多く相手にする中で身体を開発され快感に弱い部分が出てくるという。彼女にはこのデバイスが効果的なのだろう。



# ラアドパッド、



実は最近出来たばかりのデバイスで今回が初使用だ。

博士の新作……！

お目にかかれるとは幸栄です！

まだ粗削りだがな、  
これは要は感度上昇デバイスだ、  
ラアド細胞片を圧延して少し手を加えたものだ。

張り付けた箇所から電気を流し、  
感度を上げていく、特にパッドを貼った部分への刺激は  
何倍にも膨れ上がる仕様だ。





.....ううむ.....ううむ.....

あ、あの...、申し訳ありません、何か私はご不快な事をしてしまったのでしょうか？



ああ、すまない、君は今の所何も問題は無い。  
今のデバイスの状態を見て、新しい事を思いついたのだが、  
今あるものでどのよう構築するか、その為の計算をしていた。



え!?! そんな事が可能なのですか!?!

不可能ではない、僕が作ったのだからね、

.....計算は順調だ.....

.....よし、構築しよう.....









こっつこれは!?! まさかマーゴハンターの戦闘着も含めて変質させている...?!  
いや、これは...一体?!

うむ、今ある素材での最適解だな。  
僕の作品は複数のデバイスを絡める事で完成する、  
実は後2つデバイスを用意していたのだが、  
そのうちの一つを素材にする事でデバイスの効果を  
リンクさせられる可能性があるのではないかと  
思いついた。

...リンク、ですか。

そうだ、それを説明する前に君の疑問に答えよう、  
彼女の衣装を変質させているわけではない、  
バンテージとパッドを元に作成した衣装を上から被せている状態だ。

な、成程。

そして浮紋シールとマドローバイブとリンクしているのだからこういう事が可能だ。





んあ...ああ!!

ん...ふあ...  
ら...めん...

V9!!

V9!!

V9!!

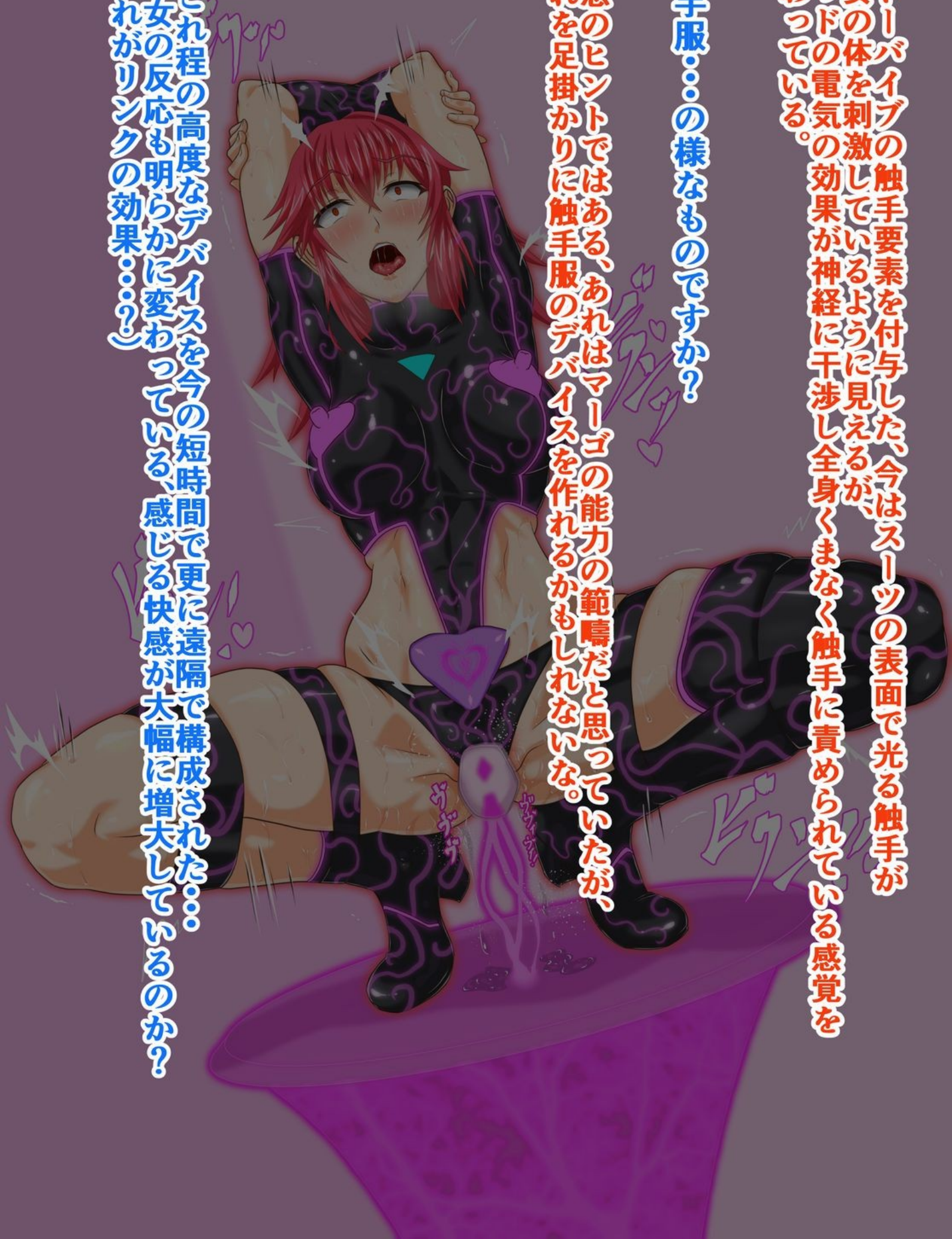
さ  
さ

マドレーパイプの触手要素を付与した、今はスーツの表面で光る触手が彼女の体を刺激しているように見えるが、パツドの電気の効果が神経に干渉し全身くまなく触手に責められている感覚を味わっている。

触手服……の様なものですか？

発想のヒントではある、あれはマールゴの能力の範疇だと思っていたが、これを足掛かりに触手服のデバイスを作れるかもしれないな。

（これ程の高度なデバイスを今の短時間で更に遠隔で構成された……彼女の反応も明らかに変わっている、感じる快感が大幅に増大しているのか？これがリンクの効果……？）





彼女の体はさっきまでのマドレーデバイスの効果で十分な発情状態にあり、その状態で絶え間なく刺激されれば時に大きく快感を感じることがある。この疑似触手スーツはその一番大きい快感を読み取りそれをコピーし全身に送る、それにリンクした淫紋がリンクとマドレーデバイスはその快感を更に大きくするよう働き、という形で各デバイスがリンクし相乗効果で快感が大きくなっている構造だ。

それが、リンクさせるという事ですか…

うむ、即興としては良い具合だ、  
ではいよいよ最後のデバイスだ。



最後!?! もう彼女は完全に無力化できていません、これで博士の仰る作品は完成しているのではないですか?

君はマーゴハンターと相対した事があるか?、  
あがつらはこちらが圧倒的な力があるか?、  
思いがけない瞬間の隙をついて反撃してくる、  
僕は一死にかけた時に学習して、  
勝利を複数書きする事で初めてマーゴハンターは無力化できるのだ。

は、はい……なるほど、勉強になります。

よろしい、では今回最後のデバイスだ。

# 「ザヴァエニ」



これで今回の作品は完成する。

このデバイスは対象の口内に潜り込み触手の先端部から体の内部に淫気を放出する、その際、横の触手が呼吸器官を塞ぎ、呼吸を代替する。

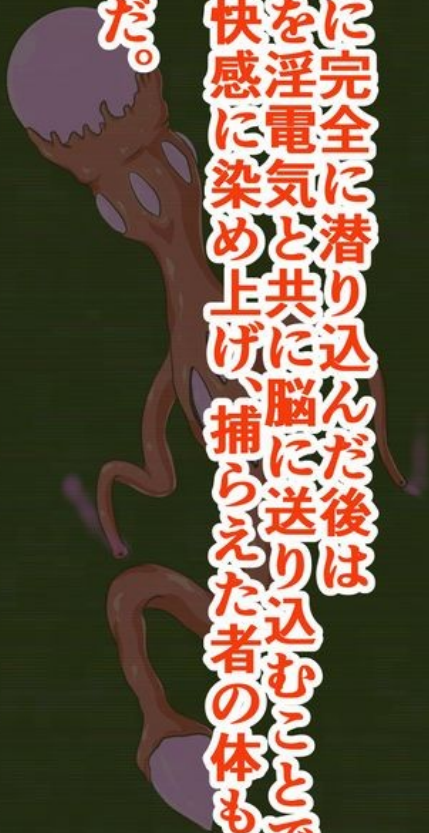
肺に送られる空気は王液と水晶の成分を含んだ強力な淫気のカスだ。

そして口内に完全に潜り込んだ後は

水晶の淫気を淫気と共に脳に送り込むことで思考すらも快感に染め上げ、捕らえた者の体も思考も全て奪い尽くす。

僕の自信作だ。

観たまえ、彼女もこのデバイスの凄まじさに感づいたようだ、









お...あえうう  
んぐううう

んぐううう

んぐううう

んぐううう

んぐううう

必死に侵入を阻もうとしているが、淫糸の効果で口を閉じ続けることはできません。  
うむ、順調に入り込んでいますな。

まるでボールギャグのようですね……、流石に彼女、苦しそうですね。





トローン!

んう... むう...  
んむお... お...

んう... むう...  
んむお... お...

んう... むう...  
んむお... お...

んう... むう...  
んむお... お...

んう... むう...  
んむお... お...

呼吸器官を代替するまでの間だけだ、  
そんな時間に時間がかからないがね。

ここからが僕の好きな瞬間だ。

肺が淫気で満たされ体中に快感が巡る、そして……





…!?  
更に淫紋ですか!





これですべてのデバイスとリンクし、  
更には2重の淫紋効果とリンクし増幅する快楽に  
降りる事の出来ない絶頂を彼女は味わっている事だろう。





これで今回の僕の作品は完成だ！



す、すごい……

（本来なら一つでも強力な効果のあるデバイスに他にデバイスを重ね、  
更にはアドリブで新たなデバイスを構築し、完全に彼女の全てを封殺している……  
しかもエナジードレインを全くしていない状態で……）

うむ、気づいたようだな、この状態に出来れば、  
彼女からエネルギーを搾取する事も簡単だ、  
もう少しデバイスを付け加えれば、永続的なエネルギータンクに流用する事もできる。



博士、この後彼女をどのようにされるのでしょうか？  
あの、もしよろしければ私に……！？  
あつ！ カメラが！。

ああ、きつと彼女の応援が来たのだから、  
最初に写った映像で何かをしていたのは確認していたからな、  
思ったよりも早いのが想定済みだよ。

それでは博士のデバイスがマーゴハンターに回収されてしまうのではないのでしょうか？

あの場所のデバイスはPINの破壊と共に  
全てのデバイスの核の部分が消滅するようになっている、  
僕らの作品をマイスゴハンターに弄られるのは不愉快だからな。  
だが僕の実験に付き合った礼としてデバイスの外側くらいは渡してもいいだろう。  
そこから解析できるものなど何もないだろうがね。



さて、これで面接は終了だ、どうだったかな、僕の実力は？

面接中の君を見ていたが、見えていた部分が決定的で理解力もある、僕の元で技術やセンスを磨く事で、僕に匹敵するものを持てる可能性があるかと僕は評価した。

…では改めて聞こう、どうだろう、僕の助手になってくれないかな？

。。。はい！

これからよろしくお願いします！！

先生！！